

第108回ASCセミナー 日本アフリカ学会 関東支部 共催

『動きの中の待機状態： カメルーン人およびエチオピア人移民の 想像する未来、（非）移動性、待つこと』

【講演者】ヘンリエッタ・ニャムンジョ博士

（ケープタウン大学・研究員、東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター・客員教授）

ケープタウン大学のモビリティと移民拠点の研究員。同大学の南南移動・不平等・開発拠点の元研究員でもある。オランダのライデン大学で修士号と博士号を取得。

南アフリカにおける移民を対象としたホームタウン・アソシエーション、経済、日常生活、情報通信技術（ICT）の活用、信仰と精神的な癒しを求める国境を越えた移動について幅広く研究してきた。研究関心は、子どもの移動と不平等、移動とモビリティ、トランスナショナル研究、移動と健康、女性の日常生活と周縁性、移動の文脈における宗教、宗教と癒しの関係性など多岐にわたる。

【要旨】

本発表では、南アフリカのケープタウンにおけるカメルーン人およびエチオピア人移民の「待機状態（waithood）」、すなわち若者が経験する長期にわたる待機と不確実性について検証する。母国と受入国の両方で実施された多段階調査に基づき、カメルーンとエチオピアにおける若者が抱く願望から、南アフリカに既に定住した人びとが直面する現実まで、移民の全行程にわたる待機状態がどのように現れるかを追う。

分析では、待機状態を移住前の静的な段階とする考え方に異議を唱え、動きと変化を特徴とする動的プロセスであることを明らかにする。そして待機状態は、移住の全行程に及び、若年層の移民が積極的に対処する多様な待機と不確実性を包むと論じる。ジェンダーと長期的な視点を採り入れることで、若い男女がどのように戦略的に計画を調整し、想像する未来や移民ネットワークといった要素を目標達成のために活用しているのかを示す。

最終的に本発表では、待機状態の複雑な性質を明らかにし、それが単なる停滞期ではなく、生産性が著しく高まる時期であることを示す。若年層の移民が困難な状況に直面しながらも希望とレジリエンスを維持し、積極的に自らの人生を形作る過程において、待機状態はレジリエンス、集団的行動、戦略的計画を育むのである。

キーワード：動きの中の待機状態、移民、願望、想像する未来、ジェンダー、南アフリカ、カメルーン、エチオピア

言語：英語 参加費：無料



2025
11/14(金)

5:40 p.m. ~

7:10 p.m. (日本時間)

場所：【Hybrid】

Online: Zoom

Onsite: 102 教室

(東京外国語大学 研究講義棟 1F/
府中キャンパス)



事前登録こちら



現代アフリカ地域研究センター
African Studies Center-TUFS

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1 (研究講義棟 4階 401E-2 号室)
3-11-1 Asahicho, Fuchu, Tokyo 183-8534 Japan
(Room 401E-2, Research and Lecture Bldg.)
Email: asc@tufts.ac.jp